

## 消費者教育実践事例集

第55回

# パートナーシップでヨコとつながる！ —コラボ講座で高齢者の消費者被害を防ごう—

松木 貴史 Matsuki Takafumi 木更津市消費生活センター 主任主事

千葉県木更津市消費生活センター（以下、当センター）\*では、2017年度から「消費生活センター発 ACTION! SDGs プロジェクト」を進めています。これは、国連の提唱するSDGs（持続可能な開発目標）と、本市が独自に行っている、人と自然が調和した持続可能な都市を構築し次世代につなぐ「オーガニックなまちづくり」の方向性が同じであることに着目し、両者を融合することによってタテ割りのないスムーズな社会をめざす取り組みです。ここから地域包括支援センターとの共催講座のアイデアが生まれました。

本稿で紹介する共催講座「めざせ！スマイル生活」は、消費生活センターと地域包括支援センター（以下、両センター）のコラボレーション企画です。両センター共催による市民向け講座は、全国的にもほとんど前例がないため、まさに手探りで進めてきたという実感があります。

## 多様な団体が運営に深く携わる

本市には「消費者教育サポーター」という制度があり、市長の委嘱を受けたサポーターが2年間の任期で当センターと連携しながら消費者教育にかかわる活動を行います。2017年4月、今回の講座で大きな役割を果たすことになる、読み聞かせボランティアの市民団体「空とぶくじら」のメンバー3名が新たに加入しました。同団体は、人形劇や紙芝居からピアノ演奏までこなす多才な集団です。こうしたスキルを消費者教育に活用することで、エンターテインメント性に富んだ講座を提案できるのではないかと

考えました。

また、高齢者の消費者被害を防止するためには両センターの連携が必要だと当センターの消費生活相談員が感じていたこともあり、「それならばみんな一緒にやっちゃおうよ」というアイデアが講座開催のきっかけとなりました。

## 開催までのプロセス

2017年度は、市内に4つある各地域包括支援センター単位で講座を開催しました（写真）。各担当エリア内の公民館を会場とし、4回合計で114名の市民が参加しました。

すべてが初めてのことであったため、講座開催までは走りながら考えるような感覚がありました。まず、各地域包括支援センターが集まる定例会議で企画の提案を行い、コンセンサスを得てから内容を組み立てていきました。地域包括支援センターになるべく負担をかけないように、資料の作成や会場の手配などに関しては主に当センターが担当し、案内チラシの配布や参加者募集については両センター共同で行いました。

写真 講座のようす



\* <http://www.city.kisarazu.lg.jp/12,575,24,157.html>

参加者募集は、社会福祉協議会や木更津商工会議所の医療・福祉・教育部会にもアプローチを行い、今後の活動につながる組織の枠組みを超えた協力関係の構築が実現しました。

## 楽しみながら役立つ講座



地域包括支援センターとお互いに「顔の見える関係」を築くことが本講座開催の一番のねらいでした。消費生活センター単独では解決できない問題が増加しているため、他部署や他機関との連携が何よりも必要となってきています。今後の消費者安全確保地域協議会の設置までを視野に入れながら、ひとまず「今、できること」を追加予算なしでやってみるという、実験的取り組みとしての意味合いもありました。

また、参加者に楽しんでもらえることも本講座のねらいの1つです。楽しいことは人の記憶に残りやすい傾向がありますので、この部分を強くアピールしました。講座のテーマは「ポップ&キャッチー」であり、緊急時の適切な対応を可能とする高齢者見守りキーホルダー紹介の人形劇や、両センターに関するクイズ、点検商法への注意喚起の紙芝居など気軽に楽しめる形式を採用することはもちろん、参加者募集においても、楽しそうな雰囲気が伝わるようなチラシとなるよう工夫をしました。そのかきもあって「楽しいイベントに参加したら、ついでに役立つ情報も教えてもらえた」といった感想も参加者から寄せられました。

## 両センターを知ってもらうために



実際に講座を開催した結果、各地域包括支援センターの職員と気軽に声をかけ合える関係ができたように思います。

また、2017年度の講座開催を通して、新たに見えてきた課題もあります。本講座は、いざというときに相談できる両センターの存在を知ってもらうことを重要なポイントとしています

が、既に両センターを知っている参加者の多さが目立ちました。そこで、まだ相談窓口の存在を知らない市民に情報を届けることが最も重要であると判断し、2018年度は5月の消費者月間に、本市の庁舎が入っているショッピングセンターのイベントスペースを講座の会場に設定し実施しました(図)。

講座会場がフードコート前であることを生かすため、2017年度は1時間だった講座の時間を30分に短縮し、人が集まりやすいランチタイムに合わせて開催したところ、多くの一見さんを始めとする54名の参加者がありました。人が集まる場所に出向くことによって、講座の存在を知らなかった人にも参加してもらえることが分かったので、同様の講座を11月にも開催する予定です。

図 消費者月間に開催した講座の案内チラシ



## 今後もさまざまな組織とコラボを



当センターは、皆さんの知恵や力を借り、それらを編集しながら新しい価値を創造する、いわゆるプロデュース型の組織をめざしています。SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」に基づき、今後もさまざまな組織とコラボ事業を行っていく予定です。従来の手法や枠組みにとらわれずに、さまざまなアイデアを実現させようと日々奮闘している熱意ある人々との出会いに期待しています。